



三重大学大学院医学系研究科・教授  
駒田 美弘 Komada, Yoshihiro  
【URL】 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/pediatrics/mie-ped.htm>

# 最前線 小児がん治療の



放射線治療などが主に用いられますが、経験豊富な多くの専門医療スタッフが協力して治療にあたること(集学的治療)が必要となります。そのため、小児がんの治療は、医学部附属病院のような小児がん治療専門施設で行われています。

## ●治療を受ける子どもたちと一緒に!

治療を受ける子どもたちの協力と信頼を得ることがとても大切です。そのために、ご両親にはもちろんですが、子どもたち自身にも、病気についてわかりやすくお話(真実の説明/Truth Telling)をします。検査や治療は、痛かったり、気持ちが悪くなったり、熱がでたりするのですが、自分の病気を理解している子どもたちは、病気に負けないようにと一生懸命闘います。そして、医療スタッフは、子どもたちの気持ちを十分に尊重しながら、その治療を進めていきます。

## ●治療中の子どもたちへのサポート“遊びと勉強”

治療中でも、子どもたちは、遊んだり、勉強したりすることを楽しみにしています。医学部附属病院には院内学級があって、病室から登校できますし、体調が悪いときには、学校の先生が病室に来てベッドサイドで個別授業をしてくれます。また、小児病棟には、**チャイルド・ライフ・スペシャリスト(Child Life Specialist / CLS)**と呼ばれるスタッフがいて、**子どもたちが治療や検査を受ける前の心の準備をする手助け**をします。さらに、**子どもたちの話に耳を傾けて、安心できる病棟環境を整えたり**、他のスタッフやボランティアの方たちと協力して、**子どもたちのために楽しい遊び**を計画します。

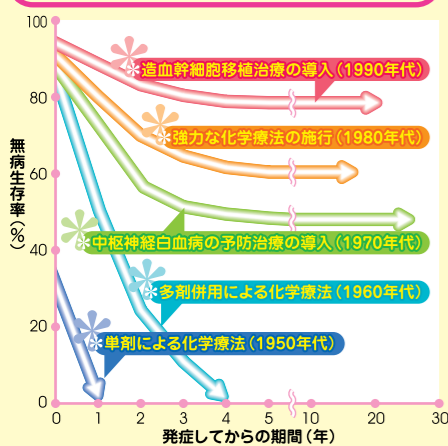
当たり前のことなのですが、医学部附属病院の小児病棟では「子どもたち中心の医療」が行われています。

## 子どもたち中心の医療をめざして

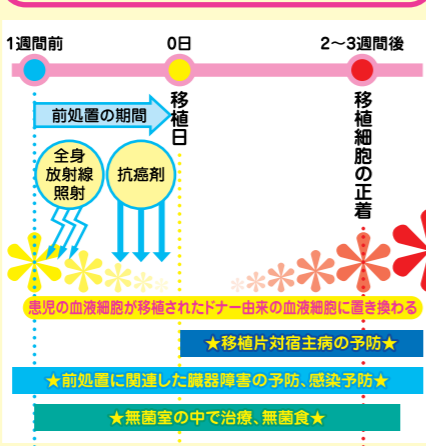
### ●小児がんは治るのですか?

小児がんにはいろいろな種類がありますが、血液のがんである白血病をはじめとして、脳腫瘍、悪性リンパ腫、神経芽腫、骨肉腫などが比較的多く見られます。治療成績はがんの種類によってそれぞれ異なります。しかし、造血細胞移植(骨髄移植、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植)など、新しい治療法が開発されたことにより、最近の治療成績は著しく改善されました。例えば、小児がんの中で最も多い急性リンパ性白血病は、10人中7・8人は治るようになっています。小児がんの治療には、抗がん剤による化学療法、外科的手術治療、

### \*小児急性リンパ性白血病の予後の改善\*



### \*造血細胞移植の前処置と経過\*



# チャイルド・ライフ・スペシャリスト (CLS)

突然の病い、病院という特別な空間で過ごす入院、処置や検査、見慣れない機械や人々…。このような環境変化をすぐに受け入れることができるでしょうか?大人であっても大変なことですね。

それでは、子どもたちは、どうでしょう?いつ治るのか、痛いか、どんな治療を受けるのか?大人以上に不安でいっぱいです。時には、その不安をどのように表現すればよいのか言葉が見つかることもできず、医療環境に不安、誤解、混乱を招いていることがあります。CLSは、そんな特殊な状況におかれた子どもたちの心に寄り添い、自分に自信を持って前向きな入院生活を過ごせるよう、一人一人に併せたサポートや病気の子どものみならず、兄弟姉妹、両親を含めた家族の支援を行う心理社会的支援専門の医療スタッフです。

1950年代よりアメリカで普及し、今では、**全米に、およそ3,000名のCLS(病院15名に対してCLS 1名)**が400を越える病院(アメリカの子供病院には全てCLSが配置)に配置されています。しかし、**日本ではまだ取得できない資格であることから現在(2005年7月)病院勤務CLSは全国で5名**です。

**そのひとり、三重大学医学部附属病院に勤務の五十嵐智美さんは「治療率の向上と同時に長期入院を余儀なくされている子どもたちが、「病気は治ったけれど、心は傷だらけ」にならないように、小児科スタッフと連携して、質の高い医療環境を提供できるように努めていきたいと思っています。」と、やさしい笑顔が印象的でした。**

### 【資格】

Child Life Council(米)の定める国際資格。  
大学・大学院での専門教育と一定期間の病院研修を終えた後、資格試験がある。

### 【目的】

- ①子どもの病気や治療に関するストレス軽減
- ②子どもの本来の成長・発達の援助

### 【主な業務】

- ①プレイルームやベッドサイドでの治療的遊び
- ②処置・検査・手術への準備(写真や絵本、人形を使っての説明と感情表出の援助)
- ③処置・検査中の情緒的サポート
- ④病気の子どもへの家族へのヒアリング、精神サポート
- ⑤ボランティア・コーディネイト、行事企画
- ⑥グリーフ・ケア(亡くなった子どもの家族への精神サポート)
- ⑦病気の子どもの兄弟姉妹への情緒的援助



三重大学医学部小児科・CLS  
五十嵐 智美  
Igarashi, Tomomi

